

大垣真宗学院 同窓会

同窓会報 第8号

発行日 2015年10月20日
 事務局 岐阜県大垣市伝馬町11
 大垣教務所内
 電話 0584-78-3363
 F A X 0584-78-3353
 郵便局振替口座番号 0830-7-206305



呼応学舎の願いにつつまれて



同窓会長 高垣 康平

学院同窓会第八回総会は二〇一五年六月六日、昨年十二月に竣工したばかりの真新しい新学舎二階教室で開催いたしました。受付を新学舎外壁に掲げられた「大垣真宗学院」表札を右に見ての玄関に設けました。履物はそのまま二階へと階段を昇る近代的な設計。途中、墨紺鮮やかに「呼応学舎 賢由」と書かれた扁額が直ぐに目に留まります。

学院生五十四名が一堂に学ぶことができる教室には、若林仏具製作所様ご寄付のお内仏が安置されており、そこで総会日程の追弔会をお勤め勤めいたしました。上程された議案をご審議いただき、滞りなく総会を終了することができました。続いて募金事業のご芳名録を学院長に贈呈し、新学舎建設募金事業実行委員会を解散いたしました。ご寄付をいただきました皆様、あらためて御礼申し上げます。

初めて訪れた会員には新学舎や同窓会寄付の机、椅子等の備品を見ていただくことができました。新たに建立された環境のもと総会を開催できましたことは、同窓会の歴史に残る総会であったと宿縁を喜ばずにはおられません。最後になりましたが、あらためてこの度の建設大事業に謹んで敬意を表すとともに、学院長、諸先生はじめ関係各位に衷心より御礼申し上げます。

合 掌

学院の動き

☆岡本学 学院長が着任

人事異動により、岡本学新学院院长（大垣教務所長、大垣別院輪番）が就任されました。海老原章学院院长は総務部に転出されました。



大垣真宗学院院长
岡本学

大垣真宗学院院长就任にあたって

このたび、6月29日附で大垣教務所長として赴任し、大垣真宗学院院长の職をも兼任いたしますこととなりました。

早速、真宗学院同窓会報に就任にあたっての挨拶をとのご依頼を賜り、これまで発行されてまいりました同窓会報を拝見いたす機会をいただきました。私自身、長浜教区出身ということもあり、身近に当院の卒院生が多くおられる地域ではあります。と、は、言、え、実、に、多、く、の、方、々、が、ご、縁、を、も、た、れ、て、い、る、こ、と、に、改、め、て、感、銘、い、た、し、た、こ、と、で、あ、り、ま、す。

最近の社会状況を見渡すと、様々な分析はあるものの、厳しい状況に変わりはなく、次代を担う大谷派教師の養成の場として、当院の役割はますます重要なものとなっております。今後同窓生の皆様の更なるご支援をお願い申し上げます。ご挨拶いたします。

☆新入生3人迎える

本年度夏期集中コースの入学式が八月十二日に行なわれ、三名が入学されました。教区は大垣、三重、三条です。十月現在の在學生（休学除く）は夏期十三名、土曜昼間十四名、土曜夜間二十名です。

同窓会の動き

☆第八回同窓会総会の開催

六月六日、新学舎研修室で開催し、三十四人に出席いただきました。昨年度の決算、新年度の予算、事業計画案などすべて原案通り可決されました（六頁参照）。

新学舎建設募金事業実行員会は、総会に合わせて全寄付者のご芳名、寄付金額を記載した「寄付御芳名録」を作成し、当日、高垣会長から海老原章学院院长に手渡しました。目録は一般公開いたしません。が、学院として永く保存していただくことになりました。また、本総会をもって、新学舎建設記念事業として同窓会役員が兼務した同実行委は、解散いたしました。

皆様のご協力、誠にありがとうございました。



寄付目録を手渡しました

なお、募金は総会後にも振込いただいていることから、当面の間、受け付けております。通常の振り込み用紙で「寄付いただく場合には、備考欄に「新学舎募金」と明記してお振込みくださるようお願いいたします。

総会後の特別講義は、大城邦義先生「大谷大准教授Ⅱに、「私の人間学」真宗学」と題してお話しいただきました。参加者一同、真宗の学びへの意欲を新たにしました。



熱のこもった講義でした

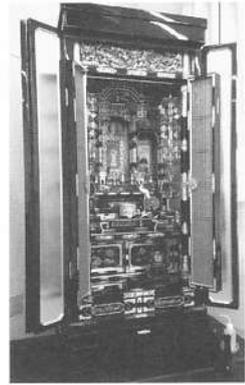


総会終了後は研修室がそのまま懇親会会場に早変わり。机を寄せてテーブルを作り、新学舎完成を喜びあいながら和気あいあいと親睦を深めました。全国各地から二十八名が参加され、一人ひとりが近況や考えていることなどを報告、予定終了時刻を大きく超えるほどの盛り上がりとなりました。

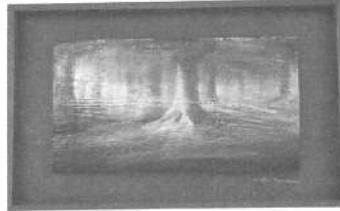
みなさんも是非来年、ご参加ください。

☆学院新学舎への寄贈品の紹介

○：若林仏具製作所様（京都）からお内仏を寄贈いただきました。



○：鷹橋賢由先生に扁額『呼応学舎』 写真上 Ⅱを揮毫いただきました。表装一式は高垣会長の寄付によるものです。



○：小笠原まや副会長のご主人で、画家の小笠原宣様（岐阜教区 上宮寺住職）より、油絵作品『光』 Ⅱ 写真下 Ⅱを寄贈いただきました。二階壁面に飾らせていただきました。

○：二〇一二年度土曜昼間コースの卒業生御一同様より、教室と指導室用の時計三台を寄贈いただきました。



☆同窓会員の近況報告

井上恵子さん(三重教区)

真宗学院を卒業して15年が経ちます。二〇〇二年土曜夜間コース卒業生が隔年で開催している同窓会を、今年七月十二、十三日、養老温泉「ゆせんの里」にて開催しました。参加者は先生三名と同窓生十名です。それぞれ生活に変化はあっても「変わらないね」の言葉があり、懐かしい顔ぶれに笑顔となり話が弾みました。



三年間毎週土曜日に大垣別院の教室に集まり、夕食を挟み真宗を学びました。そして、現在までの年月の間、それぞれ色々な事があった様子で、結婚して家族と共に頑張っている人もいれば、生死を彷徨いながらも生かされている人もいます。奇しくも生きられず私たちの心の中に生き続けている人もいます。

私が、真宗を学ぶきっかけとなったのは、組内で教師資格を取得し住職と共に歩む坊守の姿に刺激されたこと、私の父も僧侶であり仏の世界に興味があったことです。さまざまな選択肢から、大垣真宗学院に願書を提出したのは、子供との日常を両立する為でした。卒業して教師となり、自坊でのお勤めや子供奉仕団の参加、補導として関わったりしながら、自分の居場所を探しています。

た。自分の不甲斐なさを感じていた頃、子供も成長したし、今後、自分の居場所はないと寺を後にしました。しかし、子供が困った時に力になれる距離にと、同じ土地で暮らす事を決めました。身内に心の内を明かすことが出来なかった頃、今の旦那と知り合い苦楽を共にする様になり、今でも傍に居てくれます。

私の母は九州で一人暮らしをしていました。ところが三年前の暮れ、「墓を作り一緒に暮らす」と言い始めました。抗癌剤治療をしていた母の身に何か起こったのだと察しました。引越しの手伝いに行くと、体調が優れなかったのか、何一つ準備が出来ていなかった事を思い出します。何とか引越しましたが体調を戻すのに時間が掛かり、せっかく三重に来たのだからと伊勢神宮にと誘っても参拝は叶いませんでした。2回目の抗癌剤治療の時に「腫瘍マーカーが高いから強い薬を使いましょう」と言われて施した結果、副作用に負けて強い嘔気となり食べる事ができず、体力が戻らず、緩和ケア病棟に転棟が決まっていたその日、蠟燭の灯りが消える様に逝きました。

孫が産まれ母を亡くし、緩和ケア病棟に勤務している私は、公私ともに「生老病死」から逃げる事ができません。まさに真宗の掌にいたのだと感じて仕方ありません。これからは密かに臨床宗教師を意識しながら、生かされている自分を見つめて行きたいと思っています。